

新テストにおける英語の資格・検定試験の取扱いに関する主な論点

1. 活用等の仕組み 【別紙 1】

- 受験生、センター、資格・検定団体、大学との関係において、出願・受験・成績提供と大学の活用等に関するシステムの構築（経費負担含む）
- 活用方法
 - 民間検定試験 4 技能の結果をそのまま評価する場合
 - センター試験（2 技能）の結果と民間検定試験 4 技能（2 技能）の結果を組み合わせて評価する場合
- 受験生の受験可能回数、結果の有効期限

2. 認定等の枠組み 【別紙 2】

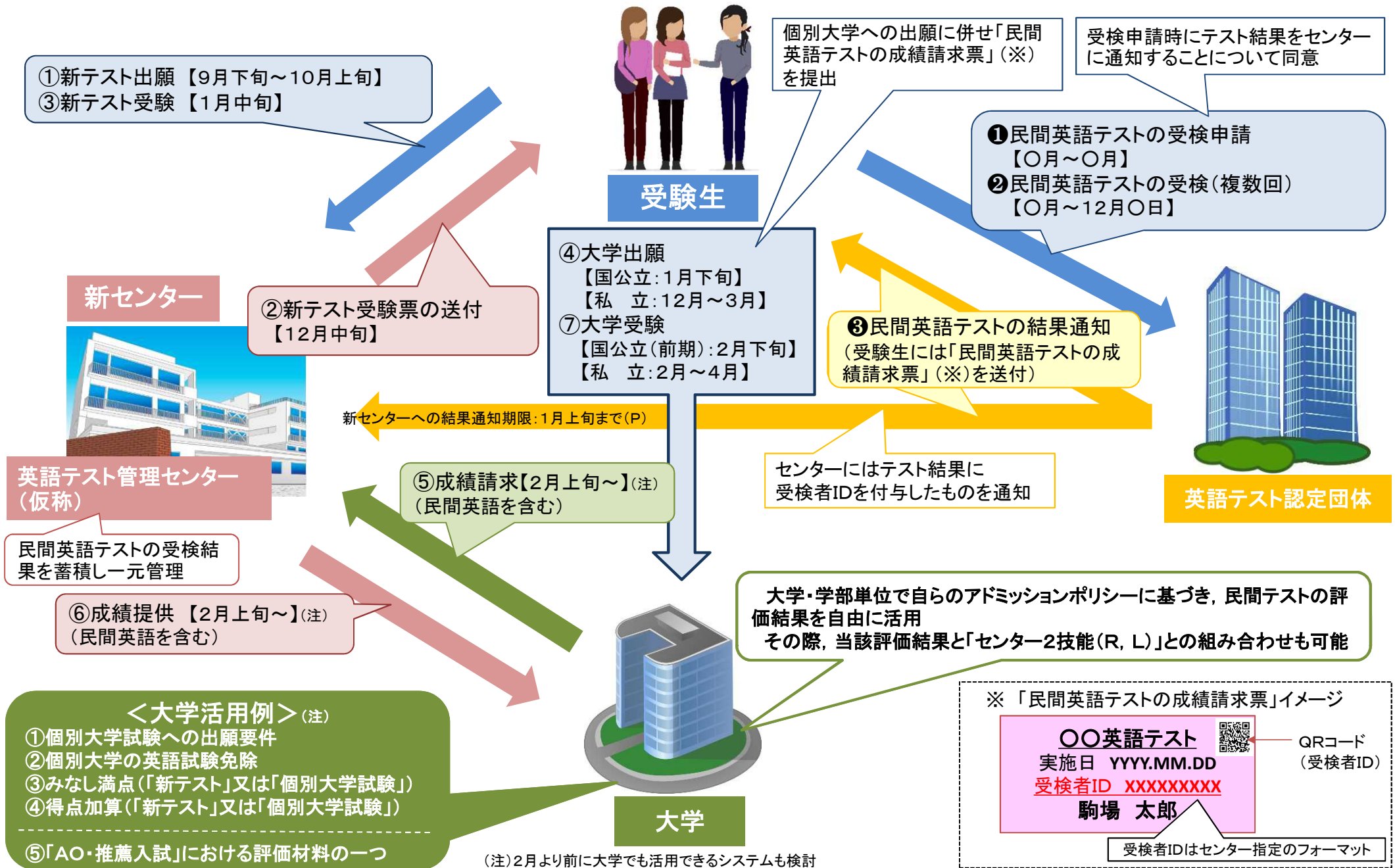
- 認定方法（認定の主体）
- 認定基準
 - 内容面 学習指導要領との関係 など
 - 実施方法面 離島・僻地への配慮
受検料負担
セキュリティ・不正防止対策など

3. 共通テスト（センター試験（2 技能））の問題改善

※大学による民間英語 4 技能テストの活用を推進していく具体的な手立て

- ・大学入学者選抜実施要項への反映など誘導策の検討
- ・センター未利用大学における個別試験やAO・推薦入試活用のため、早期のデータ提供の可能性の検討

- 民間英語テストの結果を新テストの一環として位置付ける場合のスキーム
- 大学は「民間4技能」, 「民間2技能(S, W) + センター2技能(R, L)」, 「民間4技能 + センター2技能(R, L)」などを任意に選択し活用



英語民間試験活用例の整理

1. 活用の実態

1-1. 大学における活用例

活用方法	概要	学校区分	センター試験の利用	例	利用者数	CEFR基準
①出願要件	外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学の入学者選抜における受験資格を付与する方式。外部試験のスコアは得点換算されず、個別選抜においても得点は考慮されない。出願要件としての外部試験に加えて、各大学による個別選抜の英語を別途受験する必要がある。	国公立	○	・東京海洋大:2学部の全入試(一般入試含む)で出願要件。センター試験英語あり、個別試験英語なし。	多	A2~
②試験免除	外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学による個別試験における英語の受験は免除される方式。	私立	×	・上智大学全学部:定員の2~3割がTEAP入試。個別試験英語の代わり。	中	A2~
③得点換算 (みなし満点・みなし割合)	・外部試験のスコアを得点に換算した上で、大学が設定した一定点数(閾値)を超えた場合に、各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を満点とみなす、又は各段階に応じて各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を付与する(みなし9割、みなし8割等)方式。	国公立	○	・金沢大学国際学類、長崎大学多文化社会学部、国際教養大学国際教養学部など	極少	B2~
		私立	○	・東洋大学、立命館大学など	極少	B2~
		国公立	○	・千葉大学国際教養学部	極少	B2~
		私立	×	・大阪観光大学	極少	B1~
④得点加算	外部試験のスコアを得点に換算した上で、各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点に一定の得点を加算する方式。	国公立	○	・山口大学国際総合科学部	極少	B1~
		私立	×	・立命館大学、大阪国際大学	少	B1~
⑤出願要件(の一部) (AOや推薦)	高校時代の活動を証明する書類の1つ(提出は希望者のみ)	国公立 私立	×	・多くの大学で実施	中	B1~
⑥英語特別入試	英語特別選抜入試・帰国生など少数定員の入試で、基準スコアは非常に高い	国公立 私立	×	・多くの大学で実施	極少	B2~

注:どの大学でも技能分割したスコアではなく、4技能を統合したスコアを使用。

1-2. 民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業(文部科学省)

・導入予定を含めて43%の大学が入試に利用(推薦 29% AO 24% 一般 6%)

※大学数ベース(人数ではさらに少ない。国立大学の一般入試では総計で数百人程度)。

- 認定基準については、内容面・実施方法面・実施形態面に関し、以下のような事項・内容を盛り込む。
※認定の仕組みは、民間の資格・検定団体の申請を踏まえ、新センターが、認定基準に基づき審査・認定することを想定。
- 今後、英語に関する専門的な部会(センター・文科省共同)を設置し、集中的に検討。資格・検定団体や大学・高校関係団体等の意見も踏まえ具体化。

	事項	内容
内容面	○評価すべき能力 (大学入学者選抜としての妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定の対象となる資格・検定試験の出題内容・形式が、高等学校学習指導要領に準拠していること。 ○ 大学入学者選抜としての水準の観点から評価すべき能力が適切に測定されるような問題、評価の観点及び採点基準となっていること。 ※ 英語4技能において評価すべき能力については、別紙参照
	○作問方法・評価の基準 (大学入学者選抜としての信頼性)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各回の試験結果の一貫性を確保するため、客観的な検証結果を踏まえた問題、評価の観点、採点基準を作成しており、これらの分析方法を公表していること。 ○ 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(CEFR)のA1上位層からB1層を中心として測定が可能であること。 ○ CEFRとの対照関係の客観的な検証結果を踏まえた問題、評価の観点、採点基準を作成しており、これらの検証方法を公表していること。

※その他、内容面に関し、資格・検定試験の多様な実態を踏まえ、検討が必要な論点

- ・試験時間・問題数：特段の基準を定めないこととするか、他教科とのバランスを考慮して一定の条件を課すか。
- ・問題の使用及び公表：過去問の使用や問題の公表について特段の基準を定めないこととするか、一定の制約を課すか。
- ・試験結果の表示方法：CEFRに基づく段階別表示を求めるか否か、技能別の表示を求めるか否か。

英語4技能評価について民間の資格・検定試験を活用する際の認定基準の骨子（案）②

	事項	内容
実施方法面	○実施時期・回数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年度4月から12月までの間に、複数回実施可能であること。 ○ 試験結果は、当該年度の1月上旬までに英語テスト認定団体からセンターに提供可能であること。（大学には新テストの成績と併せて2月上旬以降に成績提供）
	○実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年度複数回実施すること、1回の受検者人数の総数が一定規模（例：50万人）を超える可能性があることを前提として、必要な試験会場数を確保可能であること。 ○ 各都道府県に必要な試験会場を手配可能であること（例：原則として、いずれの受検者の居住地からも1日以内に通える試験会場の確保）。特に離島・僻地の受検者について配慮すること。
	○適正かつ公正で透明性の高い試験実施体制（テスト実施信頼性の確保）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要となる人員の質・量を確保可能であること。 （例：一定の資質を有する問題等作成担当者、試験監督官、採点者を必要数確保すること） ○ セキュリティ・不正防止対策のための必要な措置が講じられていること。 （例：機密の保持や個人情報の順守、替え玉受験対策など）
	○障害者への配慮	○障害者が受検するために必要な配慮を提供すること。（例：点字、拡大文字等）
	○継続性・安定性の確保	○実施する事業主が、認定試験の実施に必要な資産及び能力を有するものであること。
	○受検料負担	○受験生の経済的負担を考慮した検定料となっていること。

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと	
高等学校 ↑ 中学校 ↑ 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> ○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 ○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 ○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 ○Eメール、エッセイ、レポートなどを、それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。 	
	各目標をもとに、新テストの英語4技能評価において 評価すべき能力を明確化 (CEFRのA1上位層からB1層を中心とする範囲)						
	B1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 ○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 ○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の場所（店、駅など）において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。 	
	A2	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 ○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事柄や出来事について、簡単な単語や文を用いて即興で話すことができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 ○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 ○身近な事柄について、簡単な単語や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 ○聞いたり読んだりした内容について、簡単な単語や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。 	
	A1	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができる。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平場ごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある英語の中の単語や単純な文を理解できるようにする。 ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 ○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 ○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な単語や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な単語や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に関するごく限られた情報を、簡単な単語や文を用いて書くことができるようにする。 ○ごく身近な事柄について、簡単な単語や文を用いて書くことができるようにする。 	
(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な単語や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 ○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶やごく短い簡単な指示に答えることができるようにする。 ○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、自分に関するごく身近な質問に答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 ○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な単語や文を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字で書くことができるようにする。 ○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ単語や文を書き写すことができるようにする。 		

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

【中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年8月26日）より抜粋】

主な英語の資格・検定試験

参考

試験名	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC	TOEIC S&W
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構	日本英語検定 協会	ベネッセコーポ レーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進 学基準研究機構 (CEES)と共催	ベネッセコーポ レーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	ブリティッシュ・カウ ンシル、 ケンブリッジ大学英 語検定機構 日本英語検定協会 等	日本英語検 定協会	テスト作成： ETS 日本事務局： CIEE	テスト作成： ETS 日本事務局： GC&T	テスト作成： ETS 日本事務局： IIBC	テスト作成：ETS 日本事務局： IIBC
受験人数	国内人数非公表 ※全世界では約 250万人	約263.5万人 (H26実績)	非公表	約81万人 (H27見込)	約3.6万人 (H27速報値) ※全世界では250万人	約1.3万人 (H27実績)	非公表	非公表	約240万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万 人	約2.4万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万人
回数 年間	2-3回	3回	3回	2回	約35回	3回	40-45回	2-3回	10回	24回
会場数	全国12会場	公開会場230都市 400会場+準会場 (離島含)17,000会 場	全国57会場	学校会場	—	全国30会場	全国90会場	全国170会場	全国256会場	全国43会場
成績表示 方法	KET/PET/FCE/CA E/CPE(5つ) CEFR、合否、 スコア(80-230)、 グレード	1級~5級 合否による表示 H27~スコア・バンド 併記	0-1400点	0-810点 (S 0-170点)	1.0-9.0 (0.5刻み)	80-400点	0-120点 (4技能を各0- 30点で評価)	0-352点	10-990点 (L、R各5-495 点)	0-400点 (S、W各0-200点)
実施 形式	L, R, W: 紙/CBT S: ペア面接	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	L, S, R, W: CBT	L, R, W: 紙 S: タブレット	L, R, W: 紙 S: 面接	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	L, S, R, W: CBT	L, S, R, W: CBT	L, R: 紙	S, W: CBT
受験料	PET(B1) 11,880 円~ KET(A2) 9,720円~(*5)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円	9,720円	3,080円 L, R, W 5,040円 L, R, W, S	25,380円	15,000円	230USドル	9,500円	5,725円	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*2: Wは1級・準1級(H28から2級に導入), Sは3級以上(H28から4級・5級に導入)

*5: 実施試験センターにより異なることあり

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点